



事例 8

自立支援・介助軽減のための浴室・トイレの改修

本人家族の希望・要望

(日常生活における不便・不自由な点)

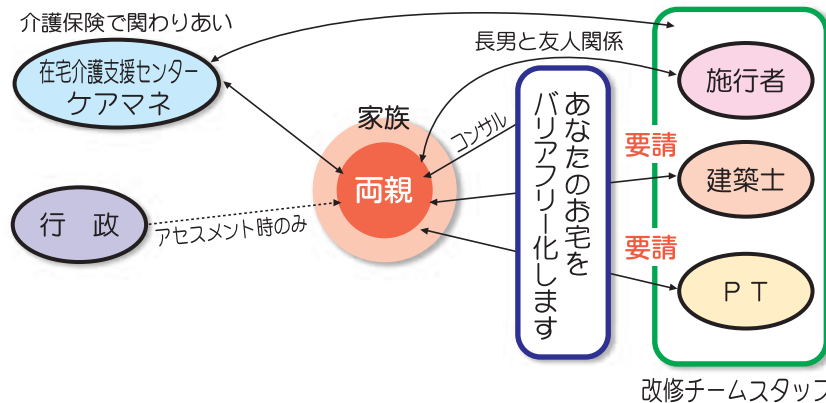
1. 自分でできる日常動作は自立できるように改修
 - ・トイレまで歩いて行けるようにする
 - ・トイレでの動作をできるだけ自分でさせたい。
2. 洗面、歯磨きも自分でできるような洗面台にする。
3. 入浴介助がしやすいスペースの浴室、浴槽にする



これまでの流れ

- 平成12年4月、介護保険で要介護と判定された両親は、共に痴呆の症状が顕著に表れ、最近は特に目が離せない状態。
- 病院より訪問看護2回/月を受けている。
- 通院は、2人共1回/2~3月、投薬は2週間に1回
- 月2回の訪問看護を受け介護指導を受け、日中の介護は殆ど嫁が1人で行っている。
- ホームヘルパーのサービスは受けていない。

住宅改修チーム



家族をまじえて
改修チームスタッフ打合せ

<p>性別/年齢 世帯構成 主介護者 住 宅 病 名 障害の程度 病 歴 介 護 度 身体及び介 護の状況</p>	<p>父親 83歳、 母親 75歳 両親夫婦、息子夫婦、孫の5人家族 息子の嫁 木造2階建 母親：多発性脳梗塞、心臓機能障害 父親：痴呆、低血圧、不整脈 母親 1種1級 平成8年7月 ・心臓機能障害でペースメーカー利用 平成2年頃 ・両膝関節病 平成3年頃 ・右膝手術 父親 ・泌尿器科にかかる ・父親 要介護1 ・母親 要支援 2人共 ・日常生活動作は殆んど自立ではあるが、立位保持、立ち上がり、歩行については何かにつかまればできるが見守りは必要。 ・入浴は嫁が手を貸してくれない、浴槽の出入り、洗身はひとりではできない。できるならば入りたくない。 ・お互いに耳が遠いため、話しかけても話がかわわらないときもある他、視力もおちているためか、日中も明かりをつける癖がある。 ・母親は嫁の側に居ると安心なのか、始終嫁の居場所を確認している。</p>	<p>自立の状況 (共通の項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尿意はあるが時々尿、便失禁あり。嫁の誘導、見守りが必要。母親は介助が必要。 ・寒がり夜寝るときも洋服を着たまま寝る。(夜間トイレにおきする時の為もある。) ●寝返り・起き上がり ・自立 ●衣服の着脱 ・何らかの手伝いが必要(母)、見守り(父) ●洗面、歯磨き ・準備、手伝いが必要 ●トイレ ・何らかの介助が必要(母)、見守り必要でオムツを利用。(父) ●入浴 ・衣服の着脱に手助けが必要で、少し手を貸すと自分で入ることはできるが、洗身は介助。 ●歩行 ・何かにつかまればできる。杖歩行。 ●移動 屋内 ・何かにつかまれば立ち上がりはできるし、歩行は杖歩行で自立 ・車椅子で手伝わってもらえばできる ●移乗 ●自立 ●調理・食事 ・調理はしないが食事は自立 ●家事 ・全て介助
---	---	---

現地調査



洗面・脱衣室



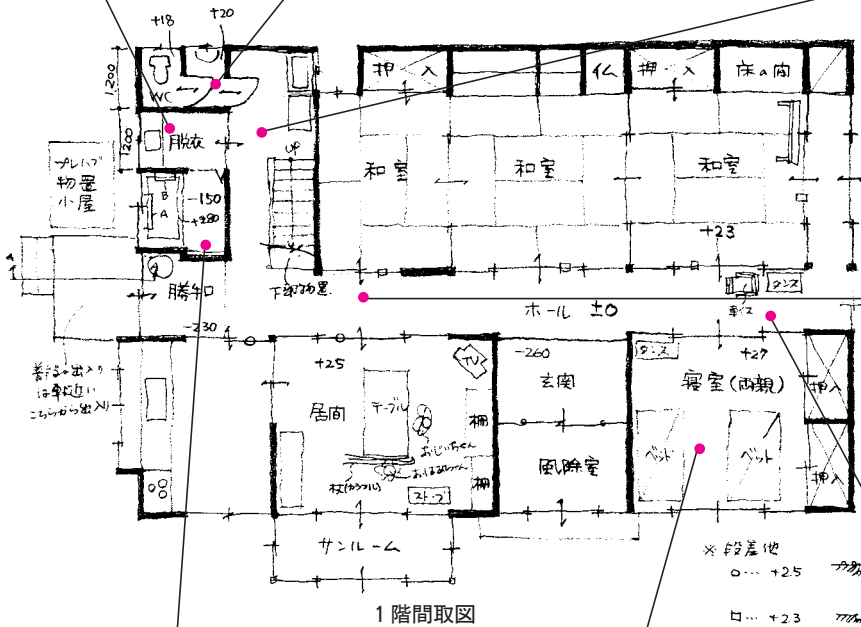
大・小トイレ
間仕切開口状況



改修チームスタッフ
現地調査



浴室・トイレ方向
ローカ



ローカ～居間 敷居段差



浴室（一度改修済）



寝室 敷居段差



改修チームスタッフ
現地調査

既存家屋の概要

建築年 昭和49年
 階・建 木造2階建
 工事範囲面積 浴室、洗面・脱衣室、WC 10.4㎡
 (勝手口及びローカの段差解消含む)
 所有形態 自己所有

住宅改修支援の流れ（スケジュール）

年月日	本人・家族の状況		住宅改修チームの支援内容と動き		
	状況	内容・要望	住宅改修支援チームの動き		内容
平成12年 8月8日	<ul style="list-style-type: none"> ○両親共に介護が必要な状況。嫁は専業主婦で、日中の殆どを家事、介護に明け暮れている。 ○介護保険の判定が要介護1と要支援で、二人とも痴呆症状が見られる。現在でも家族介護の負担が大きいのに、今後更に嫁にかかる負担は計り知れない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○痴呆の両親を介護している嫁の介護負担の軽減 	事前現地訪問調査	行政（県） 行政（町） コンサル ケアマネ	<ul style="list-style-type: none"> ・身体、ADL、介護状況等確認 ・両親・家族の要望確認 ・住宅、移動状況の確認
9月7日	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いには両親は加わらないが、母親は不安なせいか嫁の側を離れようとしめない。 ○日中は居間で2人共横になっていることが多い。 ○訪問看護婦が月に2回訪問するが、毎日の薬の管理は嫁が促さないと飲み忘れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新たな要望 ①洗面・脱衣室、トイレ、浴室、廊下周りの暖房設備及び2重サッシ化、断熱工事を含む ②トイレは便器は大小両方取付け、車椅子が入れるように。また、スペース広げてもいい。ウォシュレット、プザ、明るく。 ③洗面所も車椅子で使えるように出窓にして明るく。 ④茶の間、台所、洗面・脱衣室、トイレ、浴室、廊下回りの壁及び天井の仕上げを明るくする。 	改修チーム現地訪問調査	ケアマネ PT 建築士 施工業者 コンサル	<ul style="list-style-type: none"> ・改修プランの打ち合わせ ・身体状況を確認したうえで計画中のプランをもとに、使いやすい位置やスペースを考えながら話し合う。 ・今後の進め方 ・介護保険におけるサービス
10月19日	<ul style="list-style-type: none"> ○改修プランのたたき台をもとに話し合いを行う ○施工業者とはこれまで数回打ち合わせをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○工事内容の詳細についての確認 ①浴室に関してはユニットバスを採用することで決定。カタログも取り寄せて確認済み。 ②洗面・脱衣室及びトイレに関しては、車椅子で使用できる広さを確保したいので、外側へ増築する。 ③照明器具の消し忘れ防止については人感センサー付の照明器具を採用することで決定。 	改修プラン検討会	ケアマネ 施工業者 建築士	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの話し合いをもとに作成した改修プランについて検討。 ・家族の了解を得てこの方向で若干図面訂正をし、見積もりを調整し再度提出する。 ・今回欠席のPTにも図面等资料を送り意見を求めた。浴槽も洗い場の広さも充分である、手すりの位置等については、後日訪問しアドバイスする。
10月30日	<ul style="list-style-type: none"> ○約10日間、何度か施工業者と話し合い、予算的な部分についても確認しあってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○工事内容の詳細については、改修スタッフが入ったの話し合いで出された意見が網羅されており、納得できる金額になっているため契約する。 	改修チーム最終案作成（図面）	ケアマネ 施工業者	<ul style="list-style-type: none"> ・契約立会い。 ・工事途中でPTに手すりの位置等についてのアドバイスをしてもらうことを再確認。
11月13日	○着工		○改修プランの内容の確認	施工業者	・工事写真
21日	<ul style="list-style-type: none"> ○トイレの工事に伴い、家族は仮設トイレを使用、両親は寝室前の縁側にポータブルトイレを置き使用。 ○風呂は家族みんなで親戚の家に行く。ただし、両親は外でお風呂に入りたがらないので、11月からデイサービスを利用し、そこで入れてもらうことにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○寒くなってくる時期なので工事を早めに完成できるように、お願いをする。 	改修チーム工事進捗状況確認	施工業者 コンサル PT	<ul style="list-style-type: none"> ・工事写真 ・浴室、トイレの手すり取り付け位置についてのアドバイス
30日	○完成		○PTによる手すりの取り付け位置へのアドバイス	ケアマネ PT 施工業者	・最終プランでの手すり位置の変更について(ユニットバスの形状及び両親の身体機能、嫁の介助方法を考慮して)
12月18日	<ul style="list-style-type: none"> ○お風呂が大きくなったことで、お風呂に入れ、湯船で体を洗っている。 ○週2回自宅入浴（嫁介助）、各週1回2人デイサービスを利用。デイサービスでは入浴したがらない。人前で洋服を脱ぎたがらない。 		完成確認	施工業者	・完成写真
			○完成状況確認	ケアマネ 行政(県) コンサル	・両親及び家族の感想聞き取り ケアマネのつぶやき 改修スタッフ間の連絡を少しこまめにできればよかったが・・・
平成13年 1月24日	<ul style="list-style-type: none"> ○介護の内容が大きく変化した訳ではないが、時間と手間の軽減は大きい。 		改修チーム工事完成確認	ケアマネ PT 建築士 施工業者	・改修スタッフ、両親及び家族の感想聞き取り
			○完成状況確認		

改修プラン



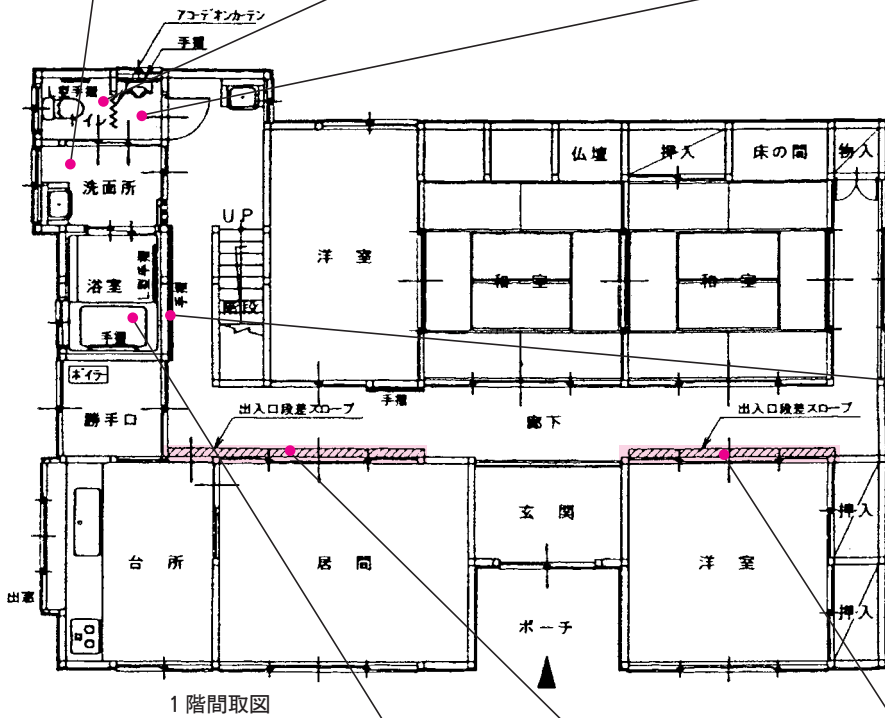
洗面・脱衣室



トイレ



トイレ 片開扉
床段差解消
手すり取付



ローカ 手すり取付



浴室



浴室
バリアフリー仕様ユニットバス
(1.25坪タイプ)で広々



居間・廊下
敷居段差解消
スロープ



寝室・廊下
敷居段差解消スロープ

住宅改修費	
総工事費	4,319,127円
自己資金	3,319,127円
公的資金	1,000,000円 (事業協力金)
介護保険	利用なし。
その他	0円

福祉用具導入
今回導入なし。以前車椅子、電動ベット
導入済み

改修案の整理（福祉用具含む）

区分	課題（ニーズ）	目 標	改修等内容	改修効果	課 題
ローカ	<ul style="list-style-type: none"> 車椅子での移動を可能にしたい。 家の中では杖歩行で、何かにつかまりながら移動している。 	<ul style="list-style-type: none"> 車椅子でも出入りができるようにしたい。 寝室からトイレ方向まで手すりを取り付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ローカと居室間の敷居に木製段差解消スロープ設置。 手すり取付 	<ul style="list-style-type: none"> 現在は杖歩行であるが、つまづきを防ぐ。 車椅子での移動も考えて出入りが自由。 手すりを伝って移動するようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 寝室からトイレへの移動距離が長いので、段差解消の他玄関への転落防止や、室内温度の確保。
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> トイレに入ることではできても、介助のスペースがない。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で排泄、更衣ができるようにしたい。 介助スペースを確保したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 大小のスペースを一体にして介助スペースを確保。 手すり取り付け。 ウォシュレット便座取り付け。 	<ul style="list-style-type: none"> 1人でトイレへ行き排泄できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 立ち上がりのために取り付けた手すりの位置が合わず、位置変更の必要がある。
洗面・脱衣室	<ul style="list-style-type: none"> 車椅子で使用できるスペースではない。また、洗面台も車椅子では使えない。 	<ul style="list-style-type: none"> 2人一緒に着替えができる広さが欲しい。 車椅子でも使える洗面台にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 洗面台及びFFストロップの取り付け分を増築する。 洗面下部を開放にする。 トイレと一体としたスペース 	<ul style="list-style-type: none"> 介護負担を軽減させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 安定な体勢で着替えるためにも、イスやベンチも使用することを考えてみる。
浴室	<ul style="list-style-type: none"> 狭く、段差もあり、介助者も一緒に入ることは難しい。 浴槽の立ち上がり低すぎて浴槽に入ることが困難。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護者が一緒に入れるような広さが欲しい。 車椅子でも中まで入れるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 1.25坪タイプのバリアフリー仕様ユニットバス。浴槽高さは、腰掛ける高さのもの。 洗い場～浴槽への手すりを取り付け。床の段差はフラット。 	<ul style="list-style-type: none"> 入浴介助に伴う嫁の介助負担軽減。 	<ul style="list-style-type: none"> シャワーチェアを使用することも必要。
照明	<ul style="list-style-type: none"> 日中でも電気をつけるし、消し忘れる。 	<ul style="list-style-type: none"> タイマー等で消える照明器具にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 人感センサー付照明器具及び換気扇。 便器のふたも人感で開閉する。 	<ul style="list-style-type: none"> 消し忘れ防止 	

本人・家族の感想

- 工事期間の初めの1週間は親戚の家にお風呂を貸してもらいにいった。
- 工事を大急ぎで進めてもらい、その後は少し早めにお風呂だけ使わせてもらった。
- 工事着工をもう1ヶ月早くできれば良かったかな？と思うが完成してよかった。
- トイレの手すりの位置が若干合わない。父親は手を伸ばしてアコーディオンカーテンをつかんでしまう。固定されているわけではないので危険だ。縦部分がパツと見て分かりやすい色か、形状であればいいのではないかな？
- 改修スタッフ間の連絡を少しこまめにできればよかったが・・・とケアマネは反省していたが、ケアマネはとてまきめ細やかに調整し、スタッフを現場に関わりやすくするための協力をしてくれた。
- 介護保険の手続きがいろいろ細かいのと難しかった。また、工事費用が予算オーバーしたが、要望していたこと全て取り入れてもらったので満足している。
- 建築士、大工さんがいてくれたので、とても良いアイデアをもらった。それぞれ言いたいことを言い合うことができた。
- 完成したら、手すりを使って移動するので、持っていた杖を忘れるようになった。
- 以前のトイレは狭く寒く大変だった。改修して寒くなくなり、明るくなって、広びろしたら、トイレで過ごす時間が長くなった。
- 浴室はとっても楽になった。特に失禁したときにお尻を洗うのが楽。
- この住宅改修を通じて夫が介護に協力的になった。
- いろいろな面で一番喜んでいるのは私だ（嫁）
- 車椅子でこのごろよく外出するようになった。
- ほぼ希望どおりに改修できた。
- <母親>
- たいして良かった。（お風呂の感想を聞いたとき）

家族へのアドバイス

- ・ 今後、トイレの介助案を考えることが課題。
- ・ 2人とも居間で横になっていることが多く、床に座ったときの立ち上がる動作は苦しそう。安定したイスに腰掛ける習慣をつけ、立ち上がる動作を助けてあげることも考えて。
- ・ 両親とも体格がよく、座ると立ち上がることが難しい様子。腰掛の高さによってはもっと楽にできるかもしれない。

改修後のフォロー

- 週2回自宅入浴（嫁介助）、各週1回2人デイサービスを利用。
デイサービスでも入浴しながらない。人前で洋服を脱ぎながらないが、日中の嫁の介護負担をできるだけ軽減するためにも、ケアサービスを利用しながら、毎日の介護を支援できるようなケアプランを作成する。
- 今回の改修でケアマネとの信頼関係が強くなったことも手伝い、積極的に相談にのり、今後の身体機能の低下も踏まえた支援体制を作る。

改修チームからのコメント

ケアマネージャから

はじめは、改修案の作成・調整するのにかなりの時間を費やしてしまい期限まででき上がるか、又、こんなにいろいろな意見がでて、家族の考えていた予算を大きくオーバーしてしまうのではないか、こんなにお金をかけて本当に介護が楽になるのか、失敗したらどうしよう、ご夫婦が入院してしまわないだろうか、などなど不安な気持ちでいっぱいでした。でも設計図ができ上がってからは、大工さん、左官屋さん達の仕事ぶりはすばらしいもので、経験の豊富な建築関係の方がいなければアイデアさえも浮かばなかっただろうと思う。

介護保険がらみの住宅改修は、私も大工さんも初めてであり、町の介護保険担当者に相談したり、大工さんには一から説明したり、手すりの高さや位置も皆で考えたが、最終的にはリハビリの先生に見ていただき取りつけました。

きれいで、明るく、暖かく、使いやすく、広々とでき上がり、介護が楽になった。介護者が明るく前向きな姿勢で介護してくれている。

この住宅改修を機会に、だんな様が介護に協力的になったなどうれしい感想を聞き、改めて住宅改修の意味を考えさせられた。

施工業者から

現場での苦労や不満はなかったが介護保険に関する書類のことが大変であった。設計図面を書いてもらったことはありがたかった。

建築士から

ご両親がとても元気になったと同時に、介護する奥様が一番元気になってくれていて、介護が楽になり、いろんな時に安心していられるようになったと言ってくれました。

住宅が明るく綺麗になり介護負担が軽減し、安全で、安心で、快適なバリアフリー化が出来たのではないかと思います。欲を言えば、玄関の出入りを少し考えてあげればいいのでは。このように便利に快適に安心して住める住宅に変わるということ、もっともっと皆さんに知って欲しいと思います。

PTから

見た目にもとてもきれいになった。

3枚引き戸にしたことが、自分ひとりでは出てこない発想、アイデアであった。

これも建築関係者が加わったためにできたことだと思う。これからの参考にしたい。